2025年度　教育課程

専 門 分 野（精神）

精　神　看　護　学

構築の考え方

精神看護学は，人間の心の健康について理解を深め，精神の健康の保持・増進と人間が生活する過程で生じる心の問題，および精神に障害のある人とその家族に対して援助する能力を養う領域である。

現代社会のさまざまな分野において，情報・消費社会の成熟とともに，国際化や少子高齢化が進み，人間関係の希薄さなども加わり，ストレスをもたらす要因が増大している。また，いじめや虐待問題，依存症，災害，老人の孤独や中高年の自殺者が増加する等，心の問題と密接に関係する事象が社会的問題となっている。

このような状況の中で，心身のバランスが崩れ，精神疾患が増加する傾向にあり，身体的な病をもつ対象にも精神的な健康問題を抱える場合が少なくない。逆に，精神的な健康問題が改善されないことが，身体疾患の回復遅延や悪化をもたらす原因となることもある。よって精神疾患をもつ対象に限らず，すべての対象において身体的ヘルスケアと精神的ヘルスケアを統合したアプローチが求められる。

これらのことから，精神活動に付随しておこる様々なストレスや危機と，それに対する適切な対処法（介入方法を含む）についての理解が必要である。このことは，心の健康の保持・増進を図る看護を提供することにつながるのみならず，学生自身の心の健康を保つことにも有益である。

また，精神障害者をとりまく法の整備も進み，精神障害者の生活の場は病院から地域社会へと広がり，自立支援の視点にたった保健・医療・福祉の活動が行われるようになった。そのためノーマライゼーションの考え方に基づき，精神保健医療福祉に携わる職種が連携し合い，援助する必要がある。さらに，精神障害者を取り巻く法や精神疾患とその看護への理解が必要となる。

以上のことから，精神看護学の授業科目構成は，精神看護学概論，精神看護学援助論Ⅰ～Ⅲ４単位（75 時間）並びに精神看護学実習２単位（90 時間）とし，合計単位数は６単位（165 時間）とする。

精神看護学概論では，精神看護学の基本的な考え方を学び，心の危機と危機の回避，危機からの回復の視点を理解する。

精神看護学援助論Ⅰでは，学校・職場等の社会生活の場における精神保健，看護師の役割と活動を理解する。

精神看護学援助論Ⅱでは，主な精神疾患の症状や治療と疾患が日常生活に及ぼす影響を理解するとともに，精神に障害を持つ対象への看護を理解する。

精神看護学援助論Ⅲでは，地域精神医療の意向とその基盤となる考え方を理解するとともに，精神に障害をもちながら地域で生活するための支援の実際を理解する。

精神看護学実習では，精神疾患が対象の日常生活に及ぼす影響や日常生活を維持するための看護を理解するとともに，精神に障害をもちながら地域で生活する対象の看護や，多職種の関係職種との連携支援について理解する。

精神看護学

目　的

人間の心の働きを理解し，心の健康の保持増進および精神に障害をもつ人とその家族の看護を実践するための基礎的能力を養う。

目　標

1　人間の心の発達と働きを理解する。

2　心の健康の保持増進および障害を予防するための看護を理解する。

3　精神障害をもつ人とその家族の特徴および障害に応じた看護を理解する。

4　精神保健医療福祉チームの連携のあり方と看護の役割を理解する。

精神看護学　科目構造

（授業科目）	（内容）
精神看護学 4単位（75時間）	
精神看護学概論 1単位（15時間）	精神看護学の基本的考え方
	心の働き
	心のしくみと人格の発達
	関係の中の人間
精神看護学援助論Ⅰ 1単位（15時間）	学校におけるメンタルヘルスと精神看
	職場におけるメンタルヘルスと精神看
	医療の場におけるメンタルヘルス
	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス
	災害時のメンタルヘルス
精神看護学援助論Ⅱ 1単位（30時間）	さまざまな精神症状
	精神障害の診断と分類・治療
	精神に障害のある対象の看護
精神看護学援助論Ⅲ 1単位（15時間）	地域移行支援・地域生活支援

科目名	精神看護学概論						
科目区分	専門Ⅱ	必修区分	必修	単位数（時間数）	1（15 時間）	対象年次	1年
担当者名	進藤　純平（実務経験のある授業科目：臨床心理士） 川北　美沙（実務経験のある授業科目：看護師）						
ねらい	精神看護学の基本的な考え方を学び、心の危機と危機の回避と回復の視点を理解する。						

回　数	内　　容	授業形態
1～4回	1　精神看護学の基本的な考え方 2　精神看護学で学ぶこと 3　心のケアと日本社会（5大疾病） 4　精神看護の課題 　1）世界から見た日本の精神科医療の課題 　2）多様化する精神科医療のニーズ 　3）入院治療から地域生活支援へ 5　社会の中の精神障害 　1）精神障害と治療の歴史 　2）日本における精神医学・精神医療の流れ 　3）精神障害と文化－多様性と普遍性 　4）精神障害と社会学 　（1）逸脱とスティグマ　社会的烙印 　（2）貧困と精神障害（ソーシャルインクルージョン） 　5）看護師・医療者が法律を活用することで果たせる役割 　6）人権擁護	講義
5～7回	1　精神保健の考え方 　1）精神の健康とは 　2）心身の健康に及ぼすストレスの影響 　　（1）ストレス反応・ストレッサー 　　（2）ストレスの社会文化的側面（ライフイベント） 　　（3）精神的危機と危機介入 　　（4）ストレスの対処（コーピング） 　3）心的外傷（トラウマ）と回復（リカバリー） 　　（1）トラウマ体験とサバイバーの心理 　　（2）成長発達に及ぼす影響（マルトリートメント） 　　（3）レジリエンス 　4）精神障害というとらえ方 　　（1）精神障害者の法律的定義 　　（2）国際生活機能分類（ＩＣＦ）の考え方 　　（3）精神保健における予防概念	
（45 分）		試験

評価方法	筆記試験で評価する。
必須資料（ﾃｷｽﾄ等）	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学①　精神看護の基礎（医学書院）
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。
履修上の留意事項	・複数の講師が担当するので，出席時間は自己管理し，体調を整えて，欠席しないように授業に臨む。

科目名	精神看護学援助論Ⅰ（精神保健）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 （時間数）	1 （15 時間）	対象 年次	２年
担当者名	外部講師（実務経験のある授業科目：看護師） 外部講師（実務経験のある授業科目：看護師）						
ねらい	学校・職場などの社会生活の場における精神保健, 看護師の役割と活動を理解する。						
回　数	内　　容						授業形態
１～３回	１　学校におけるメンタルヘルスと精神看護 １）学校におけるメンタルヘルス上の課題 ２）チームとしての学校 ３）特別な配慮が必要な児童生徒の支援 （1）発達障害と特別支援教育 ２　職場におけるメンタルヘルスと精神看護 １）働く人の心の健康問題の現状と予防対策 ２）職場復帰支援制度						講義
４～６回	３　医療の場におけるメンタルヘルス １）リエゾン精神看護の歴史 ２）リエゾンナースの役割 ３）リエゾンナースの活動の実際 ４　看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス １）看護師の不安と防衛 ２）感情労働としての看護 ３）看護師の感情ワーク ４）看護における共感の光と影 ５）感情労働の代償と社会 ６）共感疲労予防						
７回	５　災害時のメンタルヘルス １）災害時の心理的反応 ２）災害時の心理的回復プロセス ３）地域における災害時の心のケアのアプローチ ４）支援者に対するメンタルヘルス対策						
（45 分）							試験
評価方法	筆記試験で評価する。						
必須資料 （ﾃｷｽﾄ等）	系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 （医学書院） 別巻 精神保健福祉 （医学書院）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・複数の講師が担当するので，出席時間は自己管理し，体調を整えて，欠席しないように授業に臨むこと。						

科目名	精神看護学援助論Ⅱ（精神疾患の症状・検査・治療と看護）						
科目区分	専門	必修区分	必修	単位数（時間数）	1（30 時間）	対象年次	2年
担当者名	外部講師（実務経験のある授業科目：医師） 外部講師（実務経験のある授業科目：医師） 外部講師（実務経験のある授業科目：医師） 外部講師（実務経験のある授業科目：看護師）						
ねらい	主な精神疾患の症状や治療と，疾患が日常生活に及ぼす影響を理解するとともに，精神に障害をもつ対象への看護を理解する。						

回　数	内　　容	授業形態
＜対象理解＞ 1回	1　さまざまな精神症状 1）思考の障害 2）感情の障害 3）意欲の障害 4）知覚の障害 5）意識の障害 6）記憶の障害 7）局在症状	講義
2～4回	2　精神障害の診断と分類 1）診断と疾病分類 2）統合失調症 3）気分〔感情〕障害〔双極性障害および関連障害群、抑うつ障害群〕 4）神経症性障害，ストレス関連障害および身体表現性障害 (1) 恐怖症性不安障害 (2) 強迫性障害①強迫観念②強迫行為 (3) 重度ストレス反応及び適応障害 ① 急性ストレス障害（ASD） ② 心的外傷後ストレス障害（PTSD） ③ 適応障害 5）精神作用物質による精神および行動の障害 (1) アルコール症 (2) ゲーム障害 6）各発達段階で現れやすい精神障害・心的不調 (1) 発達障害 ①自閉症スペクトラム障害（ASD） ②注意欠如・多動生障害（ADHD） (2) 摂食障害 (3) パーソナリティ障害	
5回	3　主な治療法 1）精神療法 2）薬物療法 3）電気けいれん療法 3）環境療法・社会療法	

＜看護＞ 1・2回	1　ケアの人間関係 1）ケアの前提 2）ケアの原則 3）ケアの方法 4）関係をアセスメントする (1) プロセスレコードの活用と書き方・読み方 5）患者 - 看護師関係における感情体験	講義
3回	2　入院治療の意味 1）入院という体験 (1) 入院のかたち ① 任意入院　② 医療保護入院 ③ 措置入院　④ 応急入院 (2) 精神科病棟の特徴（閉鎖・開放病棟・隔離室） 2）治療の器としての病院・病棟 (1) 入院のメリット・デメリット (2) 治療的環境としての病棟 (3) 入院中の観察とアセスメント	
4・5回	3　精神科における身体ケア 1）急性期・回復期・慢性期における身体ケア 2）日常生活における身体ケア 3）睡眠とケア 4　精神科の治療に伴う身体ケア 1）薬物療法を受ける患者のケア ①　抗精神病薬の有害反応と看護 ②　服用初期あるいは増量の際にみられる有害反応 ③　生命の危険を伴う有害反応 2）電気けいれん療法を受ける患者のケア 5　身体合併症のアセスメントとケア	
6回	6　リスクマネジメント 1）行動制限と処遇の基準 2）緊急事態の対処	
7～10回 (45)	7　回復を支援する 1）回復（リカバリー）のビジョン 2）治療の場におけるリカバリーと看護の視点 (1) 急性期病棟の事例　(2) 慢性期病棟の事例 3）リカバリーを促す環境 4）回復のためのプログラム (1) グループプログラム (2) 疾病管理とリカバリー（IMR） (3) ソーシャルスキルトレーニング（SST） (4) 認知行動療法（CBT） (5) 当事者研究・マインドフルネス認知療法	
(45分)		試験
評価方法	筆記試験で評価する。	
必須資料 (ﾃｷｽﾄ等)	系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎（医学書院） 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開（医学書院）	
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。	
履修上の留意事項	・科目内容が細分化され，複数の講師が担当するので，出席時間は自己管理し，体調を整えて，欠席しないように授業に臨むこと。	

科目名	精神看護学援助論Ⅲ（地域移行支援・地域生活支援）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 （時間数）	1 （15 時間）	対象 年次	2年
担当者名	外部講師（実務経験のある授業科目：看護師） 外部講師（実務経験のある授業科目：看護師）						
ねらい	地域精神医療の移行とその基盤となる考え方を理解するとともに，精神に障害を持ちながら地域で生活するための支援の実際を理解する。						
回　数	内　　容						授業形態
1・2回	1　退院に向けての支援とその実際 1）長期入院がもたらすもの 2）地域生活への橋渡し （1）入院生活と地域生活のギャップ （2）外出・外泊の意味 （3）退院前訪問 3）多職種連携による地域移行支援 4）患者-看護師関係の終わり方						講義
3～7回	2　地域におけるケアと支援 1）病院から地域への移行 2）地域における生活支援の方法 （1）地域で精神障害者を支援する際の原則 （2）地域生活を支えるシステムと社会資源 障害者総合支援法による障害福祉サービス ピアサポート・ストレングスモデル エンパワーメント 3）地域におけるケアの方法と実際 （1）ケアマネジメント （2）アウトリーチと多職種連携 （3）複合的な問題をかかえた長期入院患者の退院支援 （4）再燃・再発の危機の対処と克服 （5）家族の支援						
（45 分）							試験
評価方法 及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 （ﾃｷｽﾄ等）	系統看護学講座　専門分野Ⅱ精神看護学②【精神看護の展開】（医学書院） 系統看護学講座　別冊　精神保健福祉（医学書院）						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・複数の講師が担当するので、出席時間は自己管理し、体調を整えて、欠席しないように授業に臨む。						

2025年度　教育課程

専 門 分 野
（看護の統合）

看　護　の　統　合　と　実　践

構築の考え方

「看護の統合と実践」は，あらゆる医療活動の場・対象の状態や状況に応じて既習の知識・技術を統合し，対象への看護の必要性を判断し，適切な方法で看護を実践できる基礎的能力を養う領域として位置づける。

まず，各看護領域の対象特性や特定の場をふまえた看護過程の展開を学び，看護研究では，基礎的な研究的視点を養うことにより，対象の問題を解決する力や自己研鑽をする力を養う。

現在、医療の進歩で診療の補助はますます高度化・複雑化している。また，患者の高齢化とともに療養の場が多様化したことで、一層些細な気遣いが必要になっている。そのため、医療安全の観点から「してはならないこと」と「すべきこと」を理解し、医療者が医療行為、医療器具、患者に存在する危険を認識する能力を養う。

さらにコロナ禍により一層の感染対策が求められるようになっている。看護師には，専門的な知識に基づいた判断力と看護実践能力，それぞれの状況においてのマネジメント力が一層求められている。このような状況に対応していけるように看護管理・医療安全を学ぶ。

また，近年の地球温暖化に伴う気候変動や地震等自然災害の頻度や規模が拡大し，被災病者への医療・看護への期待も大きくなっている。医療や看護の活動の場は国内外にかかわらず拡大しており，看護の国際貢献も求められるようになっている。あらゆる医療活動の場や人々の多様なニーズに応えられるように救急・災害看護，国際看護を学ぶ。

本領域では，知識の習得にとどまらず，想定した場面の中で，既習の知識や技術を想起し統合して使うことを体験することや，臨床に近い環境下での演習を強化することにより，卒業後の臨床現場にスムーズに適応できることをめざす。また，看護師の責務を自覚し，広い視野を持ち，主体的な学習の必要性や看護を追求する姿勢を強化する領域とする。

これらのことから，本科目を設定し，授業の科目構造は，看護の統合と実践Ⅰ～Ⅴ５単位（90 時間）並びに看護の統合と実践実習２単位（90 時間）とし，合計単位数は７単位（180 時間）とする。

看護の統合と実践Ⅰでは，各看護学領域における対象特性や場の特性を踏まえた看護過程の特徴を理解する。

看護の統合と実践Ⅱでは，看護実践を研究的な視点で考察する意義と，看護の発展のための看護研究の基礎的知識を理解する。

看護の統合と実践Ⅲでは，看護を組織として統括・管理する立場から理解し，ﾁｰﾑ医療を担う一員としての役割や態度，看護におけるﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの基礎的知識を理解するとともに，安全な医療を提供するための医療安全の基礎的知識を理解する。

看護の統合と実践Ⅳでは，救急・災害看護の特徴とその看護を実践する基礎的能力を習得するとともに，国際看護の基本理念とその概要を理解する。

看護の統合と実践Ⅴでは，複数の対象への対応や時間的制約の中での看護実践，多重課題など，対象の状況に合わせて看護を考え，優先順位や状況を判断しながら看護を実践する基礎的能力を習得する。

看護の統合と実践

目　的

既習の知識・技術を統合し，対象の特性や場の特性に応じた看護を実践できる基礎的能力を身につける。

目　標

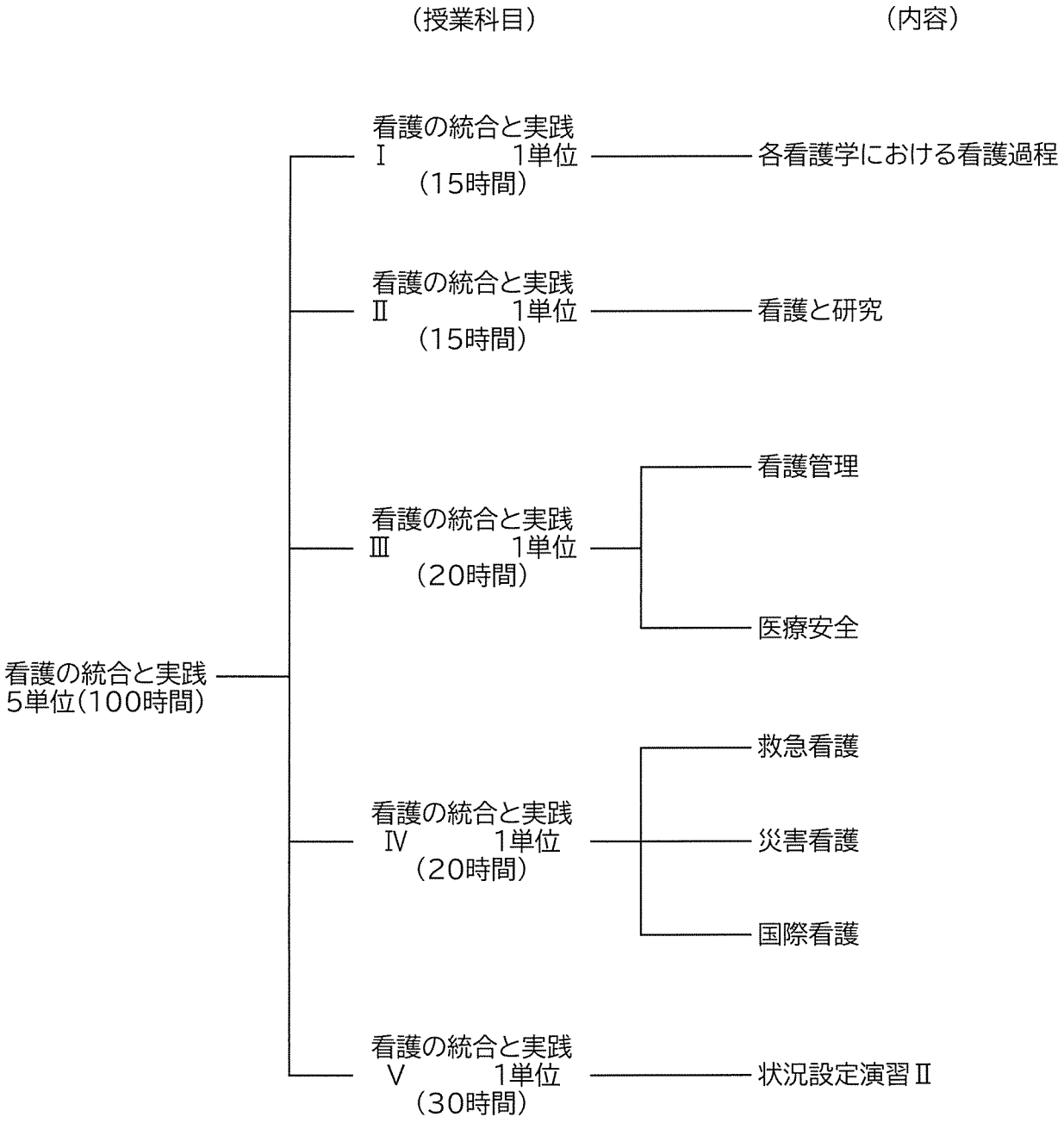
1　あらゆる医療活動の場におけるチーム医療および他（多）職種との連携協働を理解する。

2　看護をマネジメントする基礎的能力を習得する。

3　医療安全の基礎的知識を習得する。

4　既習の知識・技術を統合し，対象の状況に合わせた看護実践能力を習得する。

看護の統合と実践　科目構造



科目名	看護の統合と実践Ⅰ（各看護学における看護過程）						
科目区分	専門	必修区分	必修	単位数（時間数）	1（15時間）	対象年次	3年
担当者名	本校職員						
ねらい	各看護学領域における対象特性や場の特性を踏まえた看護過程の特徴を理解する。						
回　数	内　　容						授業形態
1・2回	1　小児における看護過程 1）小児の看護過程の特徴 2）小児看護の展開に必要な視点						講義 GW
3回	2　周産期における看護過程 1）周産期の看護過程の特徴 2）母性看護の展開に必要な視点						
4回	3　成人における看護過程 1）成人期にある対象の看護過程の特徴 2）成人期にある対象の看護の展開に必要な視点 3）周手術期にある対象の看護の展開に必要な視点						
5・6回	4　老年期における看護過程 1）老年期にある対象の看護過程の特徴 2）老年期にある対象の看護の展開に必要な視点 5　在宅における看護過程 1）在宅看護における看護過程の特徴 2）在宅看護の展開に必要な視点						
7回	6　精神における看護過程 1）精神に障害をもつ対象の看護過程の特徴 2）精神看護の展開に必要な視点						
（45分）							試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料（ﾃｷｽﾄ等）	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 各看護学領域のテキスト						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の留意事項	・各領域の対象特性を予習して臨むこと。 ・既修の看護の基本となる技術Ⅲ（看護過程）の復習をして臨むこと。						

科目名	看護の統合と実践Ⅱ（看護と研究）						
科目区分	専門	必修区分	必修	単位数（時間数）	1（15 時間）	対象年次	3年
担当者名	外部講師（実務経験のある教育者）						
ねらい	看護実践を研究的な視点で考察する意義と，看護の発展のための看護研究の基礎的知識を理解する。						

回　数	内　　容	授業形態
1・2回	1　看護研究とは 2　なぜ看護研究を学ぶのか 3　文献レビューとその方法 　1）文献の種類 　　(1)論文　　(2)学術図書 　2）一次文献と二次文献 　3）文献レビューの目的 　4）文献検索の方法 　5）文献クリティーク 　　(1)文献クリティークの意味と方法 4　研究における倫理的配慮	講義
3回	文献クリティークの実際	演習
4～6回	5　看護研究とケースレポートの関連 　1）ケースレポートとは 　2）看護実践を振り返る意義 　3）ケースレポートの進め方 　　(1)タイトル 　　(2)はじめに 　　(3)事例の紹介 　　(4)看護の実際 　　(5)考察（体験の振り返りと意味づけ） 　　(6)結論（課題の明確化） 　　(7)文献 6　看護研究の方法 　1）リサーチクエスチョン 　2）研究デザイン 　3）研究計画書の作成 　4）論文発表の方法 　5）論文要約	講義
7回	論文要約の実際	演習
(45 分)		試験

評価方法及び観点	筆記試験　　レポートの内容 レポートの提出状況課題への取り組み状況	総合的に評価する。
必須資料	系統看護学講座　別巻　看護研究　（医学書院）	
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。 ・必要時，課題となる文献等は適宜準備する。	
履修上の留意事項	・課題論文を提示した場合は，各自読み込んだうえで授業に参加すること。 ・GW，演習には積極的な参加姿勢を望む。	

科目名	看護の統合と実践Ⅲ（看護管理，医療安全）						
科目区分	専門	必修区分	必修	単位数（時間数）	1（20時間）	対象年次	3年
担当者名	外部講師（実務経験のある看護師） 外部講師（実務経験のある看護師）						
ねらい	看護を看護師個人としての視点だけでなく，組織として統括・管理する立場から理解し，ﾁｰﾑ医療を担う一員としての役割や態度，看護におけるﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの基礎的知識を理解するとともに，安全な医療を提供するための医療安全の基礎的知識を理解する。						

回　数	内　　容	授業形態
＜看護管理＞ 1～3回	1　看護とマネジメント 1）看護管理学とは (1)看護管理の定義 (2)看護管理学の基本的要素 2 看護ケアのマネジメント 1）　看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2）患者の権利の尊重 3）安全管理 (1)医療安全のしくみ (2)医療事故対策（ｲﾝｼﾃﾞﾝﾄ，ｱｸｼﾃﾞﾝﾄ，ｲﾝｼﾃﾞﾝﾄﾚﾎﾟｰﾄ） (3)院内感染対策 4）チーム医療 5）看護業務の実践 (1)看護業務 (2)看護基準と看護手順 (3)情報の活用 (4)日常業務のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	講義
4・5回	3 看護サービスのマネジメント 1）組織としての目標達成のためのマネジメント 2）看護サービス提供のしくみづくり (1)看護単位 (2)看護ｹｱ提供ｼｽﾃﾑ 3）人材のマネジメント 4）施設・設備環境のマネジメント 5）物品のマネジメント 6）情報のマネジメント 7）組織におけるリスクマネジメント 8）サービス評価 4 マネジメントに必要な知識と技術 1）組織とマネジメント 2）リーダーシップとマネジメント 3）組織の調整	
＜医療安全＞1回	1　ヒューマンエラーの概念（人はなぜ間違いを犯すのか） 2　医療事故と看護業務 1）医療事故における2種類の過失 2）医療行為に関連した事故と関連しない事故 3）看護業務と看護事故の種類	

2・3回	3　看護事故の構造 4　看護事故防止の考え方 　1）してはならないことをしない 　2）するべきことをする 5　患者に投与する業務における事故防止 　1）業務特性からみた患者に投与する業務の事故防止 　2）注射業務と事故防止 　3）注射業務に用いる機器での事故防止 　4）輸血業務と事故防止 　5）内服与薬業務と事故防止 　6）経管栄養(注入)業務と事故防止 6　継続中の危険な医療行為の観察・管理における事故防止 　1）ﾁｭｰﾌﾞ管理と事故防止	講義 GW
4・5回	7　療養上の世話業務と事故防止 　1）転倒転落事故防止 　2）摂食中の窒息・誤嚥事故防止 　3）異食行動防止 　4）入浴中の事故防止 8　業務領域を超えて共通する患者間違いと発生要因 　1）業務領域を超えて共通する患者間違い 　2）間違いを誘発する多重課題, タイムプレッシャーと業務途中の中断 9　新人特有の危険な思い込みと行動パターン	
(45 分)		試験
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。	
必須資料(ﾃｷｽﾄ等)	系統看護学講座 統合 看護の統合と実践① 看護管理 (医学書院) 看護の統合と実践②　医療安全　第2版(メディカ出版) 看護の統合と実践①看護実践マネジメント/医療安全　(メヂカルフレンド社)	
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。	
履修上の留意事項	・予習・復習をして臨むこと。 ・複数の講師が担当するので、出席時間は自己管理のうえ、体調を整え、欠席しないように授業に臨むこと。 ・グループワークには積極的な参加姿勢を望む。	

科目名	看護の統合と実践Ⅳ（救急看護，災害看護，国際看護）						
科目区分	専門	必修区分	必修	単位数（時間数）	1（20 時間）	対象年次	3年
担当者名	外部講師（実務経験のある看護師） 外部講師（実務経験のある看護師） 内部教員						
ねらい	救急・災害看護の特徴とその看護を実践する基礎的能力を習得するとともに，国際看護の基本理念とその概要を理解する。						

回　数	内　　容	授業形態
＜救急看護＞ 1・2回	1 救急救命状況にある対象の特徴 2 救急救命処置の基礎知識 1）救急対応の考え方 2）急変時の初期対応 (1)安全と状況の確認 (2)ABCD 評価 (3)症状の情報収集 (4)医師への連絡と救急処置準備	講義
3・4回 （45 分）	2 救急蘇生法 1）心肺蘇生法の基礎知識 2）一次救命処置 (1)気道確保 (2)呼吸の確認 (3)胸骨圧迫（心臓ﾏｯｻｰｼﾞ） (4)人工呼吸 (5)AED による除細動 3）二次救命処置 4）院内急変時の対応	
	BLS 講習	演習
＜災害看護＞ 1～4回	1　災害医療の基礎知識 1）災害の定義 2）災害の種類と健康被害 3）災害と感染制御 4）災害医療の特徴 (1)災害医療実施のための体系的アプローチ（CSCATTT） (2)災害サイクルから考える災害医療 (3)我が国の災害医療対応の整備 (4)NBC 災害への対応 5）災害と情報 6）災害対応にかかわる職種間・組織間連携 2　災害看護の基礎知識 1）災害看護の定義と役割 2）災害看護の対象 3）災害看護の特徴と看護活動 3 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 1）急性期・亜急性期 2）慢性期・復興期 3）静穏期	

	4　災害時に必要な看護技術 1）応急処置の原則 2）止血法 3）包帯法	
	包帯法	演習
＜国際看護＞ 1・2回	1 国際看護学とは 1）国際看護学の定義 2）国際看護学の対象 3）国際看護学に関連する基礎知識 4）グローバルヘルス 5）国際協力のしくみ 2 国際看護活動の実際 1）文化を考慮した看護 2）開発協力と看護 3）国際救援と看護	講義
（45 分）		試験
評価方法 及び観点	筆記試験で評価する。	
必須資料 （ﾃｷｽﾄ等）	系統看護学講座　統合　看護の統合と実践③　災害看護学・国際看護学（医学書院） 系統看護学講座　専門Ⅰ　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ】（医学書院）	
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。	
履修上の 留意事項	・演習の時間は限られているので，積極的な参加態度を臨む。また，わからないところは積極的に質問し，技術習得に努めること。	

科目名	看護の統合と実践Ⅴ（状況設定演習Ⅱ）						
科目区分	専門	必修区分	必修	単位数（時間数）	1（30 時間）	対象年次	3年
担当者名	本校職員						
ねらい	複数の対象への対応や時間的制約の中での看護実践，多重課題など，複雑多岐化する看護現場に対応して，対象の状況に合わせて看護を考え，優先順位や状況を判断しながら看護を実践する基礎的能力を習得する						

回　数	内　　容	授業形態
1～3回	1　優先順位の決定と多重課題への対応 1）多重課題とは 2）多重課題の種類と回避する方法 (1) 予測できる課題と予測できない課題 (2) スケジューリング (3) 予測できる課題への対応 (4) 予測できない課題への対応 3）多重課題発生時の対応の原則 4）優先順位の理由と判断	講義
4～6回	2　対象の状況に合わせた看護実践 1）課題の説明 多重課題が同時に発生する場面の事例をもとに，対象の状態やおかれている状況から優先順位を判断し対応する。 ・優先度1：重要度が高く緊急度も高い状況 ・優先度2：重要度は低いが緊急度は高い状況 ・重要度は高いが緊急度は低い。 ・重要度は低く緊急度も低い。	講義 GW
7～10回	2）ブリーフィング・実施・デブリーフィング	GW・演習
11～15回	ﾀｽｸﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ（反復技術練習）※　卒業時到達度Ⅰ・Ⅱの技術 ・点滴静脈内注射の固定　・経管栄養 ・全身清拭・寝衣交換　・採血 ・便器・尿器介助　・心電図ﾓﾆﾀｰ装着　等	技術練習

評価方法及び観点	レポート課題で評価する。
必須資料（ﾃｷｽﾄ等）	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。
履修上の留意事項	・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸや技術試験に向けた技術練習には積極的な授業姿勢を望む。・特に OSCE（客観的看護実践能力評価＝試験）の事前学習・練習はﾒﾝﾊﾞｰと協力して臨むこと。なお，卒業時到達レベルⅠ・Ⅱの技術習得に不足がある場合は，自己練習のうえ，再試験を課すことがある。